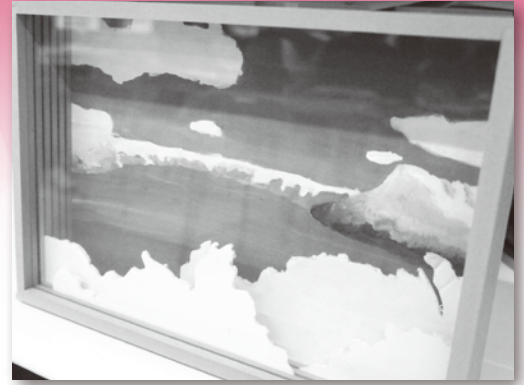


## えな



作品 | 冬の日本 |  
山岡中学校2年生 西森 有希さん

恵那市教育研究所 恵那市長島町正家一丁目1番地1恵那市役所 西庁舎4階  
https://www.city.ena.lg.jp TEL (0573) 26-6850 FAX (0573) 26-2155

## AI時代に付けたい力



恵那市副教育長  
工藤 博也

## ■思いやり

困っているときに助けてもらったり、自分が誰かを助けて感謝を伝えられたりすると、心が温かくなります。他者への共感や配慮から生まれる「思いやり」は、人と人との関係をより良くする力をもっています。しかし最近は、顔を合わせての「ありがとう」が減り、メールで済ませることが多くなりました。さらに、AIによる文面は便利でも無機質に感じられます。AIの進化が人と人との直接的なつながりを弱めてしまうことに危惧を覚えます。

こうした時代にあっても、多くの学校で取り組まれている「よさ見つけ」では、思いやり関連の話題にあふれているのではないのでしょうか。この好機を逃さず、思いやりの心を育み、ひいては世界の平和に寄与する人材を育成する気持ちで取り組んでいきたいと考えています。

## ■やりきり

目標に向かう情熱と粘り強さは、ある研究では幸福感や健康といった人生の満足度とも関係しているとされています。「やりきり」には、挑戦と失敗を繰り返す体験が必要不可欠であると考えます。しかし、最近の子供たちは「これだけやっても駄目だった」という段階に至る前に、途中で投げ出してしまうことも少なくありません。やりきる力は、AIの支援によって後押しされる場面も増えてきました。たとえばAIドリルの「がんばりました」という励ましは意欲を高める効果があり、実際に成果が見られます。一方で、「自動で〇〇が身につく」といった、努

力の過程までAIが肩代わりしてしまうような技術開発も進んでおり、やりきる力を奪ってしまうことにならないよう注意が必要です。学校では、テスト期間の取組や委員会・係活動など、粘り強さを発揮した実践を価値付け、やりきった達成感や充実感を味わわせるという、地道ではあっても大切な取組が日常的に行われています。

やりきる力は必ずしも「生きるための必須要素」ではないかもしれませんが、それでも、失敗を乗り越え、やり抜いた経験は、子供にとって大きな宝となります。その体験をさせないのは、あまりにももったいないと考えています。

## ■自律(セルフコントロール力)

自ら意思決定し、主体的に行動する「セルフコントロール力」は、コロナ禍において多くの子供たちが発揮した力です。そこには、子供たちが本来もつ潜在的な力の大きさを改めて感じさせるものがありました。この力を伸ばす近道は、やはり授業です。課題や学び方における自己選択の機会を設ける指導方法が、最近再び注目されています。同時に、学習ログの解析をもとに「次にどの学び方を選ぶとよいか」を提案してくれたり、困り感を可視化して教師に知らせたりするAIの機能も進化しています。学びの効率化にはつながりますが、子供が自力で適切に選択する力や、教師が子供を理解する力が弱まらないよう、AIはあくまで補助的に活用することを意識したいところです。セルフコントロール力の高い子は、学力だけでなく、自己効力感や適応力も高いと言われています。授業でも日常生活でも、この力が働くこと「できた」「うまくいった」という実感が生まれ、成長の手応えにつながります。これは、社会で自立して生きていくために欠かせない力であり、大切に育てていきたいと考えています。

数ある非認知能力の中で、「おもいやり」「やりきり」「じりつ」は、頭文字をとって「お・や・じ」として私自身が教育現場で、これまで子供たちや教職員に付けたい力であると伝え続けてきたものです。これらは人間らしさを支える重要な要素であり、AIに頼る場面がさらに増える未来においても、変わらず大切にしていかなければならない「不易の力」です。今後もこれらの力を義務教育のうちに少しでも高められるよう心して取り組んでいきたいと考えています。



## 確かな「読みの力」を身に付けた児童の育成

確かな「読みの力」…「読みのて」を使い、言葉や構成の特徴を正確に読み取ること



### I 目指す児童の姿



- 高** 目的に応じて内容や要旨を捉えながら読み、優れた叙述について自分の考えをまとめることができる姿。
- 中** 目的に応じて内容の中心を捉えたり、段落相互の関係を考えたりしながら叙述を基に想像して読める姿。
- 低** 書かれている事柄の順序や場面の様子に気付いたり、想像を広げたりしながら読める姿。

本校では、目指す児童の姿の具現に向けて、児童の実態に合った研究に重点を置いてきました。まずは、国語の授業に主体的に取り組むことができるように、単元の見通しがもてる単元構想を工夫しました。

#### → 研究内容1

次に、1単位時間の読み取りでは、児童が確かな読みの力を身に付けるために、段落ごとに区切り、言葉に着目して登場人物の心情や作者・筆者の意図を読み深める活動を行いました。

また、児童の深い読み取りを助けるツールとして「読みのて」の指導を行い、本校独自の活用法を見出してきました。

#### → 研究内容2

## II 研究の成果



### 研究内容1 単元構想の工夫

- 1 付けたい力を明確にし、教材の特色を生かした単元構想の工夫
- 2 単元の出口の言語活動を明確にした単元構想の工夫

**成果** 単元の導入で、出口の言語活動を児童と共有することや、小見出しを設定するなど、見通しをもつことができるよう指導したことによって、児童が教材文を通して何を学べばよいのかが明確になり、主体的に授業に取り組む姿を生みました。

**課題** 場面ごとに読み取りを行う授業スタイルは、多くの時数が必要になる場合が多いため、身に付けたい資質・能力に照らし合わせながら、単元構成をデザインしていきたいです。



### 研究内容2 学習過程の工夫

- 1 学年に応じた一人読みの指導の工夫
- 2 ねらいに迫るための、問い返しや深めの発問、板書の工夫

**成果**

- 「読みのて」を継続して指導してきたことで、教材文から児童が読み取る内容と発言の質が高まりました。
- 「読みのて」を学年の発達段階に応じて分けたことで、教師が指導する内容と、児童が活用するものが明確になり、6年間を見通した系統的な読みの指導ができました。

**課題** 根拠を明確にした発言ができる児童は増えてきたものの、話型に当てはめるだけの発言がまだあるため、さらに発言の質を高める余地が感じられました。

かくして  
あるときと、ないときのちがいを比べて読み取る

なりきって  
なりきって気持ちや様子を  
読み取る

調べて  
調べた言葉の意味をもとに  
読み取る

### 使い方

つなげて  
比べて  
場面や段落をつなげたり  
比べたりして読み取る

言葉 という言葉を、  
みると、  
考え と思いました。  
理由 だからです。

おきかえて  
別の言葉にかえて  
読み取る

## III 今後に向けて

- 言葉に着目した部分的な読み取りだけでなく、教材文全体を捉える読み取りへ発展させていきたいです。
- 国語で培われた「読みの力」を、教科横断的に活用し、自ら学ぶことのできる児童の姿を目指して、さらに研究を行っていきます。



仲間と共に自発的・自治的な活動を充実させることで、  
よりよい生活やよりよい自分を実感できる生徒の育成



## I 研究主題の設定

本校では、生徒が仲間と関わり合いながら、自らの生活や集団をより良くしようとする力の育成を、学級経営における重要な柱の一つとして位置付け、特別活動を中心に研究を進めてきました。

これまで、学校行事や係活動において、生徒が協力して取り組む姿は数多く見られてきました。一方で、「決まっているからやる」「みんながやるからやる」といった受動的な姿勢が先行し、活動の目的や意味を自分事として捉え、より良い状態を目指して改善しようとする姿は、必ずしも十分とは言えない状況がありました。そこで、生徒自身が学級の課題を見だし、仲間と意見を交わしながら合意形成を図り、その過程を通して学級や自己の成長を実感できる生徒の育成を目指し、本研究主題を設定しました。

## II 研究仮説

「生徒同士による自発的・自治的な活動を充実させるために、①話し合い活動に必然性や意欲を生み出す事前指導の工夫、②課題解決に向けて活動の見通しや意欲がもてる話し合い活動の工夫、③学級や自己の成長段階や高まりを振り返る活動の工夫を行えば、よりよい生活を生み出したことや、自己の成長を実感できる生徒を育成できる」と考えました。

## III 研究内容と実践の概要

- 1 話し合い活動に必然性を生み出す事前指導の工夫
- 2 課題解決に向けて、活動の見通しや意欲がもてる話し合い活動の工夫
- 3 学級や自己の成長段階や高まりを振り返る活動の工夫



学級づくりアンケートを活用し、個と集団の意識の傾向や変化を把握しました。その結果を基に、学級の課題や乗り越えるべき壁を明確にし、話し合い活動に必然性をもたせた議題設定を行いました。話し合い活動では、「出し合う—比べ合う—まとめる」という流れを意識し、生徒が活動の見通しをもって参加できるようにしました。また、不安や迷いを出し合った上で、「よし、やってみよう」と思える合意形成を大切にしました。さらに、単元を通してどのような意識の高まりを目指すのかを明確にした計画を立て、足跡シートを活用することで、過去の自分と現在の自分を比べ、成長を実感できる振り返りを行いました。

## IV 研究発表会当日の声と成果

研究発表会当日の公開授業では、全学級で合唱発表会に向けた中間振り返り学活を行いました。

1年生の学級では、話し合いの進行や意見の整理を生徒自身が担い、教師の支援が最小限であっても、自分たちで話し合いを進めようとする姿が多く見られました。参観者からは、生徒主体で活動が成立している点が高く評価されました。

2年生の学級では、生徒自らが課題解決に向けた提案を行い、それらを基に意見を交わしながら合意形成を図る姿が見られました。理由を確かめ合い、折り合いをつけようとする話し合いの質の高さが評価されました。

3年生の学級では、合唱をより良くすることを目標に、生徒が中心となって絶え間なく意見を交わし、三年間の経験を基に合意形成を図る姿が見られました。不安や思いを言葉にしなが話し合う心理的安全性の高さが評価されました。

研究全体に関わって、「心の居場所となる学級づくり」を基盤とした必然性のある話し合いが実現していること、「抽出生徒」を軸とした意図的な指導により、生徒が自らの弱さを乗り越える姿を価値付けていること、足跡シートの活用により、生徒が自己の成長を証拠として実感できていることが成果として明らかになりました。

## V まとめ(成果・課題・今後)

- 成果** 心理的安全性の高い学級づくりを基盤に、生徒が課題を自分事として捉え、仲間と必然性のある話し合いを行いながら合意形成に至る姿が、全学年で定着しました。
- 課題** 話し合いにおいて、解決策の検討にとどまらず、課題が生じた背景や要因をより深く追究する問いの設定を行い、「よりみんなにとってよい」と思える合意形成にする方法を模索する必要があると考えました。

## VI 今後に向けて

心理的安全性の高い学級集団が、生徒の主体的な話し合いや合意形成を支える重要な土台であることを再確認することができました。今後は、これまでの学級経営の成果を教科指導へとつなげ、一人一人が「できた」「分かった」という実感をもてる教育活動の充実を図っていきます。

# 『GIGAワークブックえな』の実践紹介

## 1 今年度の導入と目的

『GIGAワークブックえな』は、今年度から恵那市が導入し、活用を進めている情報教育教材です。『研究所だより No.289』では、この『GIGAワークブックえな』について、次のように紹介しています。

『GIGAワークブックえな』は、

- ネットの特性やリスクを理解し、適切なコミュニケーション方法を学ぶため作成しました。
- 子供たちが主体的に考え実践的に学び、行動できる態度を育成できるよう発達段階に応じて3段階(ビギナー・スタンダード・アドバンスド)に分けて構成されています。
- 情報についての知識や判断力、実践力を“教える”のではなく、“共に考える”ことを重視してつくられています。
- 教師用指導書が付属しており、このような不慣れな先生でも、授業を進められます。
- 1単位時間で使える教材もあれば、短時間で扱える内容もあり、学級の実態に応じて柔軟に使えるよう工夫されています。



GIGAワークブックえな

## 2 3校の実践

今年度、この『GIGAワークブックえな』を効果的に活用した3校の実践を紹介します。

### 長島小学校



**実践内容** 2年生(ビギナー p33「上手な写真のとり方を学ぼう」)  
6年生(スタンダード p43「写真からどんなことがわかるかな」)

- 2年生では、タブレットを使って「上手な写真の撮り方」を学び、伝わる構図や配慮することについて確認しました。
- 6年生では、「SNSに投稿された写真から読み取れる情報」を手がかりに、個人情報やプライバシーについて考えました。

### 成果

それぞれの学年に応じた『GIGAワークブックえな』を活用すること、段階的に情報について学んでいます。2年生では、実際にタブレットを使い写真をとりながら、どのように写真をとると、目的に合った構図になるか考えました。まさに、主体的に考え、実践的に学ぶことができています。長島小学校のように、低学年から正しい使い方や配慮すべきことを確認することは、今後のトラブルを回避することにつながります。



### 恵那東中学校



**実践内容** 3年生(アドバンスド p15「災害時のSNSの使い方」)

道徳の授業で、「災害時にSNSから情報を得る場合、どの情報を基に行動するべきか」をテーマに学習しました。実際に見られる投稿を題材に、信頼性の確かめ方や注意点を話し合い、緊急時の判断に必要な視点を共有しました。

### 成果

ほとんどの中学生がSNSを利用する現状から、さまざまな情報の中から正しい情報を選び取る力を育むことは大切です。特に、命に関わる災害時を想定した本教材を活用することで、生徒たちは真剣に考えることができます。恵那東中学校のように、「こういう情報を信じるようにしましょう。」と、一方的に教えるのではなく、仲間同士で共に考える場を設定したことで、情報を見極める考え方を身に付けることにつながります。



### 恵那北小学校



**実践内容** 全校(アドバンスド p13「使いすぎているかな」)

月1～2回の全校朝会で教材を選び、全校児童で本教材を活用しました。異年齢で意見を交わすことで、多面的な見方が広がりました。話し合いの様子を恵那北小のYouTubeにもアップし、学習内容を保護者にも共有し、家庭でも話題にできるようにしました。

### 成果

恵那北小学校では、学校の実態に応じて教材を選び、全校朝会のように短時間でも、異学年でさまざまな意見を出し合いながら考えを広げ、深めることができています。また、計画的に活用することで、単発の知識で終わらず、情報に関わる考え方が児童に浸透します。児童生徒が情報に関わる機会は、家庭がほとんどです。学習内容を家庭にも共有することで、学校と家庭が同一歩調で情報について考えていくことができます。



## 3 来年度に向けて

恵那市では、来年度もネットの特性やリスクを理解し、適切なコミュニケーション方法を学ぶことを大切にしていきます。各校で実践する際にも、今回紹介した3校のように、『GIGAワークブック』を活用し、子供たちが「主体的に考え、実践的に学び」「教える」のではなく、「共に考え」「学校や学級の実態に応じて柔軟に」子供たちが情報について、「主体的に」学べるよう工夫していきましょう。

私たちは、園の特色ある活動に「運動遊び」を掲げて、子供たちと共に楽しい園生活が送れるように保育を展開しています。

### 1. 「共主体」で遊ぶ

当園では先生が「教える人」、子供が「やる人」という決まった役割を無くして「みんなが遊びを作る人」になることを目標にしています。大人が準備したメニューを子供がこなすのではなく、「おもしろそう!」「こうしてみたら?」という子供のつぶやきに、大人も「それいいね!」「どうなるかな?」と一緒に興味を示し、活動を仕組みます。そんなふうに、心が響き合う関係から始まる運動遊びを目指しています。

### 2. 戸外の自然を力にして

今の時代、車が増えたり自然が減ったりして、子供たちが外で思いきり体を動かす機会が少なくなっています。

そこで当園では、近くの公園や田んぼ道を積極的に歩く「園外保育」を大切にしています。坂道を登り降りしたり、虫を探したり、畑で野菜を育てたりするなど「生きた体験」を重視しています。車が少ない安全なコースを選び、違う学年の子と手をつないで歩くなど、「自分の足で歩き、自然と触れ合う体験」を積極的に園の生活に取り入れています。



### 3. 仲間とのつながりの中で

177名の子供たちが過ごすにぎやかな園だからこそ、「人との関わり」を大切にしています。

大きい子が小さい子の頭をなでてあげたり、お世話をしたり。そんな温かい交流があちこちで見られます。「〇〇ちゃんみたいになりたい!」「一緒にリレーをして楽しかった!」そんなふうにお友だちと一緒に心を動かし、力を合わせる喜びを感じてほしいと願っています。「みんなと遊ぶのもっと楽しいね」という気持ちを育めるよう、日々の遊びを見守っています。

### 4. 先生自身も「環境」の一部として

子供たちにとって、一緒に過ごす先生も大切な「環境」の一部です。

私たちは、一人ひとりが子供たちの学びを支える存在であることを忘れず、日々学び続けています。これまでの計画を常に見直し、「どうすればもっと子供たちが成長できるか」を考え、よりよい保育を目指して改善を重ねています。何より、子供たちが「こども園は楽しい!」「明日もまた遊びたい!」と笑顔で通えるようにしたいと思っています。先生も、遊びの道具も、すべてが最高の環境になるよう、心を込めて保育に取り組んでいます。また、遊びを豊かに広げる「対話」の力を信じて子供たちに声を掛けるようにしています。

### 5. 遊びが運んでくれる「生きる力」

体を動かす楽しさ、そして自分たちで遊びを創り出す喜びを通じて、子供たちは「自分で考えたことが形になる」実感や、「友達と知恵を出し合う心地よさ」を肌で感じ取ることができると思います。私たち大人もまた、子供の自由な発想に驚き、共に笑い合うことで、「指導しなきゃ」という肩の力が抜け、保育の本当の楽しさを再発見できるはずです。

「転んでも、うまくいかなくても大丈夫」その試行錯誤こそが、子供と大人が共に育ち合う、大切な「遊び」の時間であると信じています。



令和7年度  
恵那市教育実践研究論文  
受賞者一覧

今年度は、一般の部10点、新人の部14点、合計24点の応募がありました。実践テーマとしては、今年度も「主体的な学び」「協働的な学び」「学びの自己調整」に関連する内容が多くみられました。これは、各校でこれらを校内研究のテーマとして設定していることによるものと思われるのですが、同時に、研究や取り組みを自らの実践力向上の機会として前向きに活用している表れでもあったと感じました。

優秀賞【一般の部】

(敬称略)

学校名	氏名	論文テーマ	教科領域等
大井第二小	原 田 将 伍	生涯にわたって運動に親しむ生徒の育成～主体的・対話的で深い学びを意識したダンスの実践～	体育/保健体育
恵那西中	今 井 裕 太	仲間とともにできる楽しさを味わい、より質の高いものを求める生徒の育成～「共生」の視点を大切にした授業改善を通して～	体育/保健体育
恵那西中	中 島 健 志	「生き生きと科学的に探究し、自ら学びを深め続ける「自立した学習者」の育成～生徒の自己教育力を育むための授業改善～	理科
恵那西中	長 谷 川 博 一	「恵那西PDCAサイクル」による主体的・対話的で深い学びを生み出す理科学習～第3学年 理科における実践～	理科
恵那西中	江 崎 大 三 岩 崎 菜 々 子 沼 田 爽 太 郎 小 木 曾 み の り	主体的に自己の力を可能な限り発揮する生徒を育てる、自立活動の在り方 ～ストレスカード グリーンファイル プランニングシートを使った指導の工夫～	特別支援教育
岩邑中	伊 藤 文 彬	予測困難な時代を生き抜くために必要な資質・能力を育む社会科学習 ～「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を意図した授業づくりを通して～	社会

優秀賞【新人の部】

学校名	氏名	論文テーマ	教科領域等
恵那北小	土 屋 彩 華	いのちの教育を通して、児童の自己理解・他者理解を深める指導の在り方	健康安全
飯地小	堀 優	仲間と練り合い、自らの学びを高める児童の育成～仲間との学び合いを生かす算数科学習を通して～	算数/数学
長島小	近 藤 ち こ	学び合いを通して「自分で仲間とできるようになる」	学級経営
三郷小	林 戸 美 樹	「つながる」命の授業の実践について ～生命を尊重する心情や態度を育むことができる児童の姿を目指して～	特別の教科道徳

優良賞【一般の部】

学校名	氏名	論文テーマ	教科領域等
岩邑中	遠 藤 啓 太	学習の認知的側面と情意的側面に着目した授業改善～本校研究主題「わからない」にこそ価値がある」に基づいて	社会
岩邑中	遠 藤 啓 太	授業における「わからなさ」を学びの起点として価値付ける学校研究～生徒の学習過程の姿容と教師の授業観・評価観の転換に着目して～	その他(研究推進)

優良賞【新人の部】

学校名	氏名	論文テーマ	教科領域等
武並小	安 江 侑 十	確かな「読みの力」を身に付けた児童育成に向けた支援の手立て	国語
恵那西中	町 野 優 衣	創作活動による音楽的な見方・考え方を踏まえた豊かな表現力の育成	音楽

特別賞

学校名	氏名	論文テーマ	教科領域等
大井第二小	山内 貴公美	医師ゲストティーチャーと連携した小学校がん教育の実践とその効果～がんを学ぼうあなたと大切な人のために～	健康安全

温故知新

心に残る  
遊び・授業・先輩・職員

小さな種を蒔く・・・



原 賢 志

恵那市立東野小学校

AIが何でも教えてくれる、超情報化社会の中で、「教師の仕事って何だろうか?」。私の中でその答えにつながる、恩師とのエピソードがあります。

小学6年生の頃、私には「人に教えるのが好き」という自覚がありましたが、特別うまいとも思っていないませんでした。授業で分からない友達がいると、自然と隣で説明してしまう。それは自分の性格(ただの、おしゃべり好き)の一部のようなものぐらいに思っていました。

卒業が近づくと、ある自習の時間の後に、以前担任をしてくださっていた土屋先生(多分自習の監督にみえていた)が私を呼び止めて言われました。「さっき、友達に算数の問題を教えてたよね。あれ、とても良かったよ。あなたは「友達がどこでつまづいているか」を見るのが上手だね。」唐突な言葉に、私は驚きました。褒められたことよりも、土屋先生が自分のそんなところを見ていたことが意外でした。そして、続けて「あなたは、大井小を卒業した後、恵那東中、恵那高、岐阜の大学と進んで、きっと教師になるわ・・・。」と言われました。

その時は、そんな予言は深く気に留めることもなく、「人に教えるのが上手で、先生に向いている」ということが心のどこかに種として残っている程度でした。

高校生となり進路希望調査のとき、土屋先生に何気なく言われた言葉が背中を押しました。「友達がどこでつまづいているかを見るのが上手」当時はただの一言に思えましたが、いつの間にか、その言葉が心の中で芽を出し、大きく自信へと育ててきていることに気がきました。数年後、土屋先生が予言したとおり、岐阜県の教師になっていました。

「教師の一番の仕事って、何だろうか?」と時々考えます。やはり、「一人一人をよく見て、その子に合った言葉をかけ、小さな種を蒔くことかな・・・。」といつも思っています。